

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.29

日時	2013年7月29日
行脚先	洲本城
住所	兵庫県洲本市山手（淡路国）
行事名	

特徴

大永6年(1526年)、三好氏の重臣・安宅治興が築城しました。
養子安宅冬康(三好長慶弟)、長男信康、二男清康へと代々受け継がれますが、天正9年(1581年)の淡路討伐の際、羽柴秀吉・黒田官兵衛らによって攻め落とされます。その後、洲本城は仙石秀久に与えられました。
しかし、秀久は九州征伐の際に軍律違反を犯して高野山へ追放され、かわって脇坂安治が城主となります。その際に天守が造営され、倭城での経験から「登り石垣」が築かれました。
大坂夏の陣の後、徳島藩の蜂須賀氏の所領となった際、由良城の交通の便が悪いなどの理由から、1631年から1635年にかけて由良城を廃して洲本城に本拠を移しました。この移転は城下町ごとの大移転であったため「由良引け(ゆらびけ)」と呼ばれているそうです。
現在ある模擬天守は、昭和3年(1928年)に御大典(昭和天皇の即位式)を記念して築造されたもので、模擬天守としては日本最古だそうです。平成11年(1999年)には国の史跡に指定されましたが、現在では模擬天守の壁面にひび割れが見つかり、補修工事を行うことになったため、模擬天守への立ち入りは禁止されています。

黒田官兵衛との関わり

官兵衛は四国征伐の前準備として、わずか3日で淡路島を制覇したと言われています。
岡山県瀬戸内市様より応援品として頂戴した【「名刀 安宅切(あたきぎり)」】は、天正9年(1581年)に黒田官兵衛が、淡路国の剛強で洲本城を居城としていた「安宅河内守」(安宅清康か安宅貴康)を討ち取った際に使用された名刀と言われています。安宅切の刀身は「備前長船祐定」により制作されており、官兵衛が人を斬ったのは山脇氏とこの件の2例だけだそうです。

記録

